

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	岡崎 健
論文担当者	主査 垣淵 正男
	副査 木島 貴志
	副査 八木 秀司
学位論文名	Usefulness of our proposed olfactory scoring system during endoscopic sinus surgery in patients with chronic rhinosinusitis (慢性副鼻腔炎患者における内視鏡下副鼻腔手術の嗅裂スコアリングシステムの有用性)
論文審査の結果の要旨	
<p>慢性副鼻腔炎患者の嗅覚障害の病態および予後決定因子に関しては、未だ十分に解明されていない。</p> <p>本研究は、内視鏡下副鼻腔手術 (Endoscopic sinus surgery: ESS) 中に嗅裂部における嗅神経分布領域をスコアリングすることにより、術前後の嗅覚への関与、副鼻腔炎における嗅裂の病態について検討することを目的としたものである。</p> <p>術中の嗅裂部の粘膜所見について、嗅裂天蓋、中鼻甲介、上鼻甲介、上鼻道、蝶形骨洞自然口の 5 か所を、正常 (0 点)、浮腫 (1 点)、ポリープ (2 点) としてスコア化した (Score of olfactory clefts, SOC_s, 0-20 点)。</p> <p>2008 年 6 月から 2016 年 9 月 (8 年 3 か月間) の期間に ESS を行い、術後嗅覚を評価できた好酸球性副鼻腔炎 129 例 (Eosinophilic chronic rhinosinusitis: ECRS 群)、非好酸球性副鼻腔炎 48 例 (non-ECRS 群) を対象とし、嗅覚は、T&T オルファクトメーターを用いた基準嗅力検査の平均認知域値により評価した。</p> <p>日本鼻科学会嗅覚検査検討委員会案を用いて「改善群」と「不変群」に分け、多変量解析により、年齢、性別、喘息、血液検査、嗅覚検査 (基準嗅力検査、静脈性嗅覚検査)、呼吸機能検査、手術所見、SOC_s について、術後の嗅覚予後因子を検討した。</p> <p>その結果、改善群と不変群の SOC_s を比較すると、ECRS の術後 3 ヶ月、12 ヶ月群、non-ECRS12 ヶ月群で不変群が優位に高いスコアとなった。部位別に比較すると、ECRS3 ヶ月群では蝶形骨洞自然口、嗅裂天蓋、12 ヶ月群では中鼻甲介、蝶形骨洞自然口、嗅裂天蓋が有意にスコアが高く、non-ECRS3 ヶ月群では上鼻道、12 ヶ月群では上鼻道、嗅裂天蓋が有意に高かった。次に改善群と不変群における単変量解析で $p < 0.10$ の症例を用いてロジスティック回帰分析を行った。ECRS3 ヶ月群では、呼吸機能障害 (OR=3.084)、SOC_s (OR=1.094)、ECRS12 ヶ月群では、平均認知域値 (OR=2.266)、SOC_s (OR=1.134) が有意な不変因子であったが non-ECRS 群では、短期、長期ともに有意な因子は認めなかった。</p> <p>申請者らが提唱する SOC_s は、嗅覚障害の程度と予後と関連しており、副鼻腔炎による嗅覚障害の病態把握にも有用であった。</p> <p>申請者が本研究によって示した内容は、中耳手術における内耳の機能への影響に関する重要な知見であり、学位授与に値すると評価した。</p>	